

●子どもの幸福度

世界一のオランダ

2月9日、衆議院第二議員会館にてリヒテルズ直子氏の講演会が開催されました。リヒテルズ氏は、日本人であり、オランダで家族と共に暮らす教育研究者です。

リヒテルズ氏は、「オランダは日本の「合わせ鏡」となる国で

・子ども達の「幸福度」は先進国21カ国中第1位
・年間労働時間は日本の2/3で



リヒテルズ直子氏

生産効率率は1.5倍
・高校まで公立私立とも授業料負担なし

・自殺率は日本の半分以下で安楽死は合法化

・九州ほどの国土で先駆的な環境保護対策

等教育・経済・社会制度から日常生活、生き方まで、自立と多様性の面で日本と異なる」と言う。

さらに、オランダは、子どもの幸福度が世界一で、しかもPISAの学力結果も高いという結果ができています。

日本はオランダから何を学び、どのように教育制度改革に繋げることができるのか。氏は教育改革の4つの提言をされていました。

- ① 大学入試制度の廃止と卒業資格制度の導入
- ② 検定教科書制度の廃止と教

●「学び合い」って

知っていますか？

2月16日、参議院会館で『学び合い』のセミナーが開催されました。『学び合い』というのは上越教育大学の西川純先生が提唱しているきわめて斬新な教育法です。現在、小中学校において劇的な効果を上げて、今全国の教室に拡がり始めています。

その基本的な考え方は

① 教師が一人で教えるより、子どもたちがお互いに教え合う方が「手」が多い。

② 勉強がわからない子どもの気持ち



「学び合い」の教育を実践している横浜市の先生

ちは、教師よりも子どもの方がよくわかる。

③ 他の子どもに教えることで教科についての子ども自身の理解は深まる。

授業の進め方は、最初の5分で課題を出し↓次の15分で個々に児童は問題を解き↓残りの20分でわかった子がわからない子に教える↓全員がわかるまで続ける、という流れになっています。

教室では「わからないから教えて」という声があちこちで聞こえ、授業が終わっても教え続ける光景が見られるそうです。こうした一人も見捨てないという授業が1年間で1000時間になります。

その効果として①人間関係が改善され、いざこざを子どもたちが解決できるようになり、②クラスの間関係が良くなると不登校は解決し、③成績が10%程度はすぐ

材・方法の多様化の推進

③ 学校の自治的改善努力を促す仕組みづくり

④ 保護者（生徒）と教員の経営参加権を法的に保障する

氏は「政権交代後のニッポン、今こそ抜本的な教育改革をし、エクスクルージョン（排除）の競争教育からインクルージョン（包括）の共生教育にするチャンスである！」と語っていました。課題もあります。良いところはオランダの教育



国会議員も多く参加

も参考にしたいと思えます。

に上がり、④自閉症、アスペルガー、学習障害、ADHD・・・といった障害は、医者であっても完治させることは極めて困難ですが、『学び合い』では「みんな」で支え、さらに特別支援の子を切り捨てないクラスにおいては、他の子も自分「も」切り捨てられないという安心感を得ることができるといいます。

こうした教育法が拡がっていくといいですね。



「学び合い」についての新聞記事